

ダスキン健康保険組合
第136回組合会報告

令和5年度予算と事業計画

2023年2月1日に開催されたダスキン健康保険組合第136回組合会において、令和5年度予算および事業計画が議決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

健康保険

増加を続ける医療費や高齢者医療への納付金支払いなどに対処するため保険料率を引き上げます

保険料率を10.10%から11.03%に

令和5年度予算は、保険給付費（医療費）の増加や、高齢者医療への納付金増加に対処し、また、これまで赤字補填のため取り崩してきた別途積立金を回復する必要から、令和4年度に引き続き、保険料率を引き上げねばならない状況となりました。組合員の皆さまには、以下の内容をご理解いただき、ご協力の程よろしくお願いたします。

▶ 保険給付費（医療費など）の増加

令和3年度の保険給付費は前年度比7.1%増、令和4年度は前年度比1.5%増の見込みです。令和5年度は前年度比4.5%増で予算組みしています。令和3年度までの直近5年間の合計数値と、それ以前の5年間を比較すると、被保険者1人当たり保険給付費は7.8%増加、逆に報酬月額（保険料を決めるための、お下りを基準とした働きさん1人当たりの収入額）は、再雇用や短時間労働者の増加などにより4.4%減少しています。平均年齢は2.2歳上がっています。今後とも保険給付費の増加傾向は継続すると思われ、将来も見据えた対応が必要となります。特定健診による早期発見や、特定保健指導による重症化予防などにより保険給付費を適正化していくために、皆さまにおかれましても、事業所や当健保から案内が届いた場合は、積極的にご参加いただきますようお願いいたします。

▶ 納付金の増加

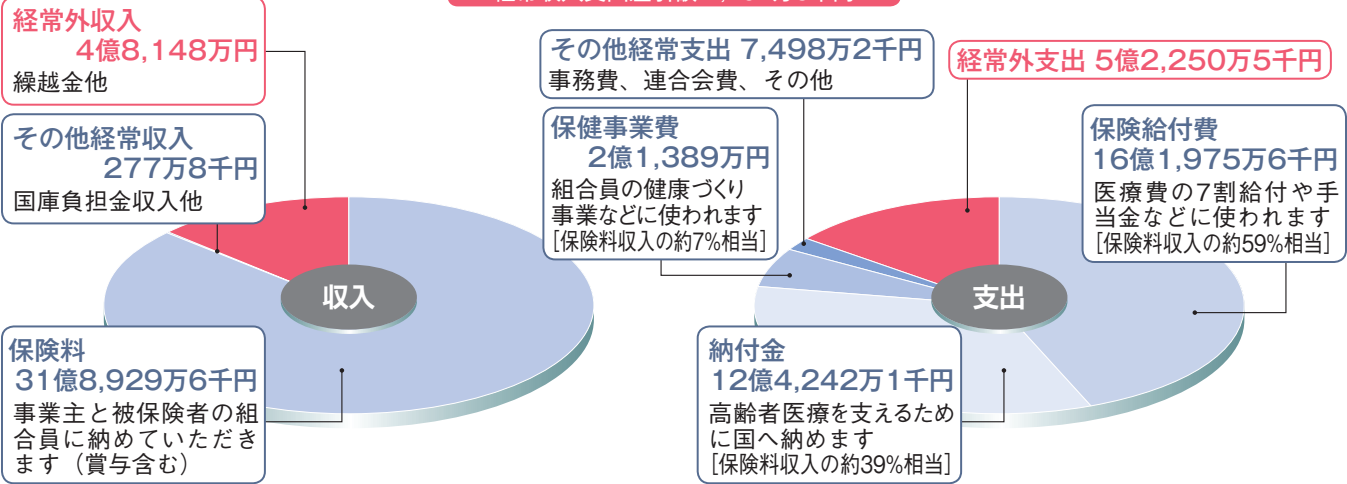
団塊の世代が2022年から後期高齢者（75歳以上）に移行し始めており、2025年には団塊の世代全員が後期高齢者になります。健康保険組合などの保険者は、後期高齢者の医療費の一部を支援金として負担していますが、超高齢化社会の訪れに伴い、今後この支援金のさらなる増加が見込まれ、次に説明する前期高齢者納付金対策とあわせ、これに対する備えが必要となります。

▶ 別途積立金の補填

全国的には前期高齢者（65歳以上75歳未満）は国民健康保険（市町村国保）への加入が多いため、前期高齢者の医療費負担は国民健康保険に偏ります。この不均衡解消のため、各保険者の前期高齢者加入率に応じて負担を調整するしくみがとられています（加入率が平均より少ない保険者は差分を負担する）。この計算の際、その保険者に属する前期高齢者1人当たり医療費が積算されます。1人当たり医療費が大きく増加すると、納付金の額が大幅に増加します。当健保では令和3年度には前年度比4億9,000万円増加しました。前期高齢者の方々には病気の早期発見、早期治療に努めていただきたいと思います。制度のしくみ上、わずかな人数の医療費増加で億単位の支出増となるため、ある程度の積立金を確保しておく必要があります。現在、別途積立金は底をついており、令和5年度は、急な出費に備えるため予備費に5億円弱の予算を計上しているものの、今後の保険給付費や後期高齢者支援金の増加も含め、別途積立金を補填しておく必要があります。

予算の基礎数値（年間平均）	
被保険者数	6,970人
平均標準報酬月額	275,000円
保険料率	11.030%
事業主	5.515%
被保険者	5.515%

経常収入支出差引額 4,102万5千円



介護保険

保険料率は1.85%に据え置き

令和5年度の介護保険料率は据え置き1.85%。介護納付金は3億7,833万円（前年度予算比3,207万円増）を見込んで予算編成しました。

一定の繰越金は見込めるものの、超高齢化社会を背景とした将来の納付金増加を見据え、保険料率は据え置きとしました。

科目	収入予算額
介護保険収入	4億385万1千円
繰越金	1億68万7千円
雑収入等	4千円
収入合計	5億454万2千円
科目	支出予算額
介護納付金	3億7,833万円
介護保険料還付金	19万円
積立金	2千円
一般勘定繰入	1千円
雑支出	1千円
予備費	1億2,601万8千円
支出合計	5億454万2千円

予算の基礎数値（年間平均）	
第2号被保険者数たる被保険者数	4,810人
平均標準報酬月額	293,000円
保険料率	1.85%
事業主	0.925%
被保険者	0.925%

介護保険料は40歳以上65歳未満の被保険者から徴収されます。